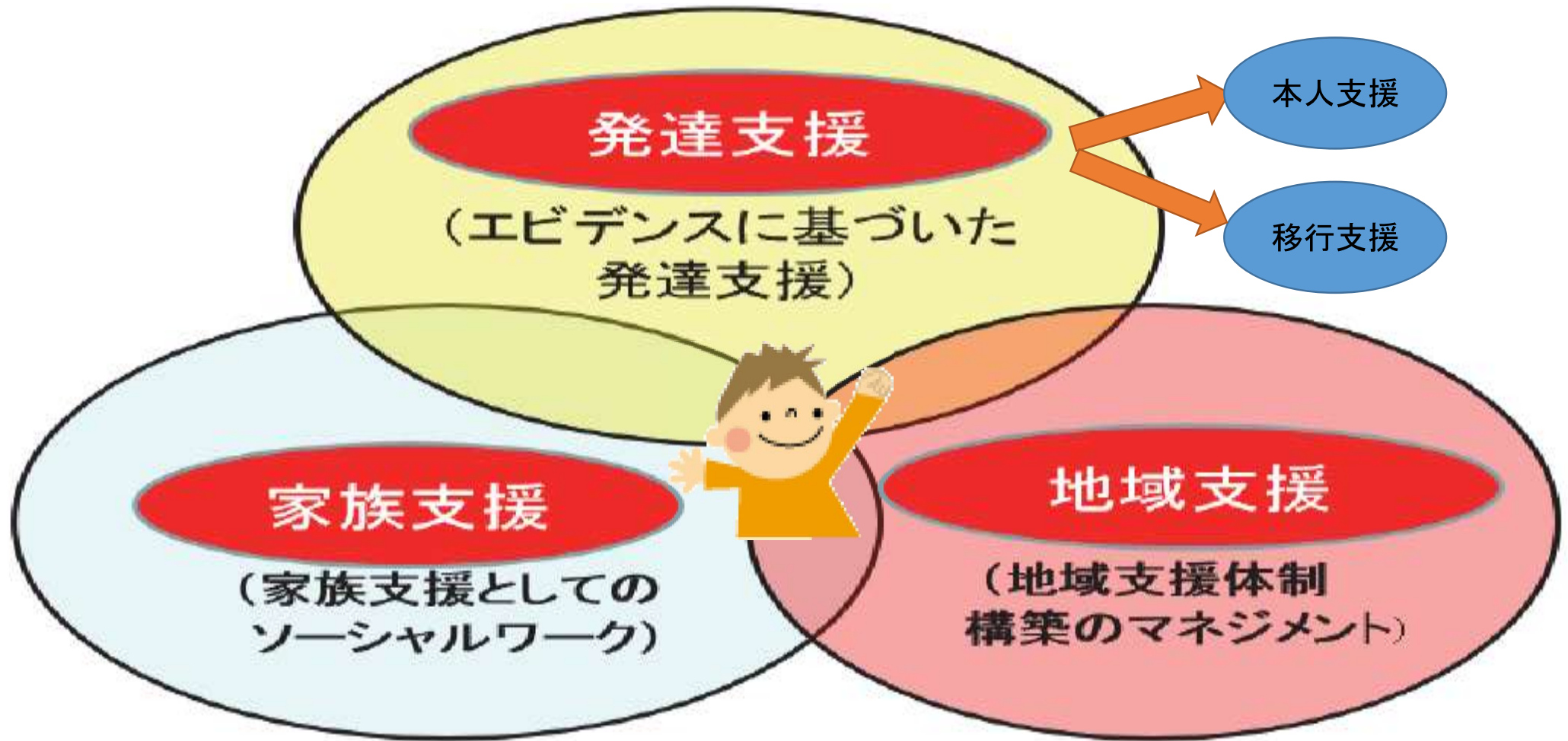


児童期の具体的な支援プロセスについて

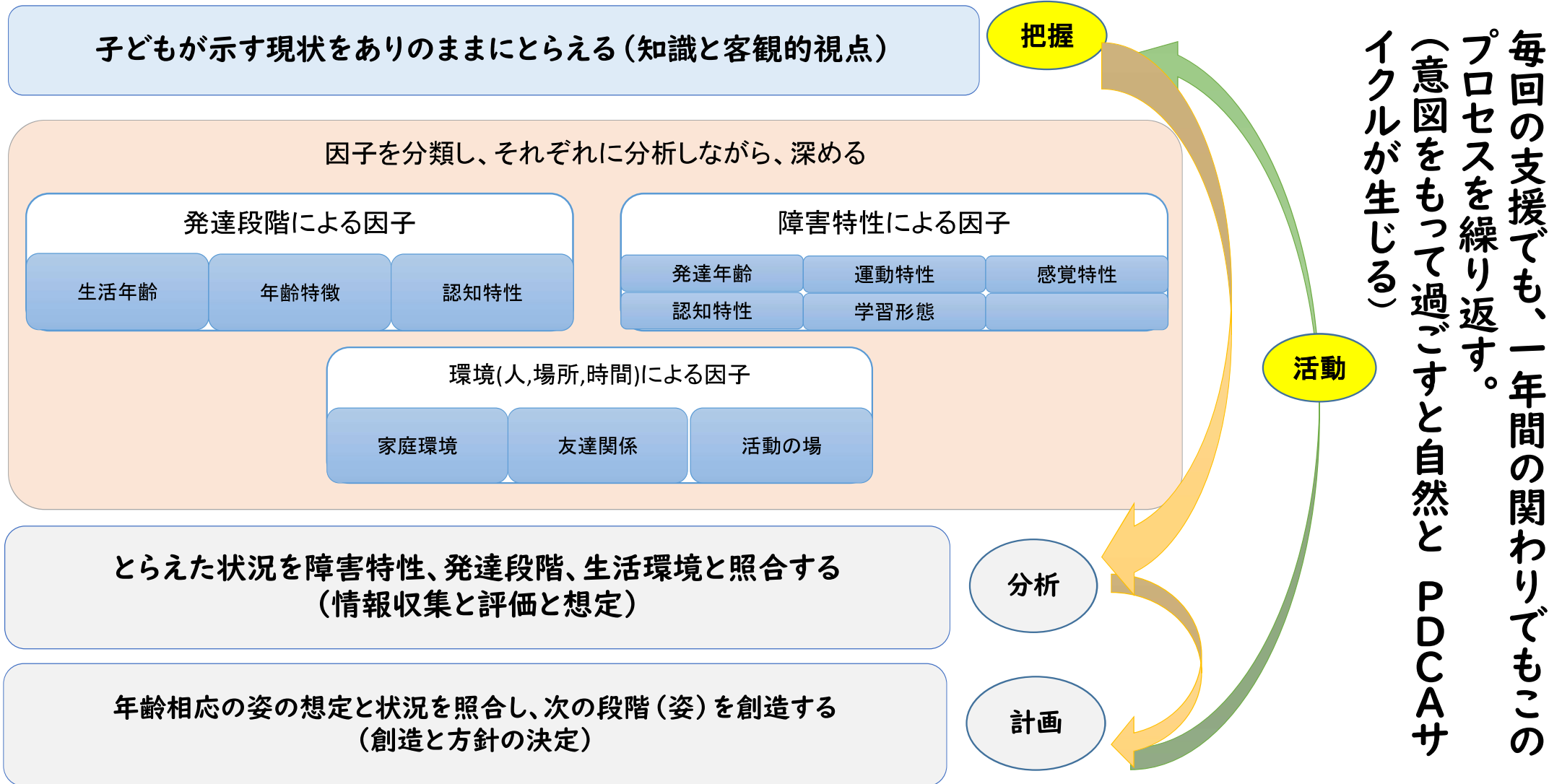
- ① 発達支援
- ② 家族支援
- ③ 地域支援



児童発達支援の3つの要素



①発達支援 本人支援 (関わりに不可欠な視点とプロセス)



①発達支援 本人支援(関わりに不可欠な視点とプロセス)

児童期の特徴の一つは、アセスメントの細かさ
～因子を分類し、それぞれに分析しながら、深める～

「深める」とは、見極めることであり、
子どもの頭と体で起きていることを知ろうとすること

- 子どもだからこそ、できないことはたくさんある！「できないこと」の主となる要因は、いくつかに絞られる。
- 発達検査は必要に応じて行い、実生活の中では一つの指標として確認しながら、どの部分を伸ばしていくと良いのか、さらにケース検討を重ねていく。
- 各因子が相互に影響し合いながら、障害が形成されているが、短期間でその影響の度合いに変化が生じることに留意する。

①発達支援 本人支援（関わりに不可欠な視点とプロセス）

障害のある子どもの発達の側面から、「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」の5領域において、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにすることを大きな目標として支援。

（ア）健康・生活

- （a）健康状態の把握
- （b）健康の増進
- （c）リハビリテーションの実施
- （d）基本的な生活スキルの獲得
- （e）構造化等により生活環境を整える

（イ）運動・感覚

- （a）姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- （b）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- （c）身体の移動能力の向上
- （d）保有する感覚の活用
- （e）感覚の補助及び代行手段の活用
- （f）感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

（ウ）認知・行動

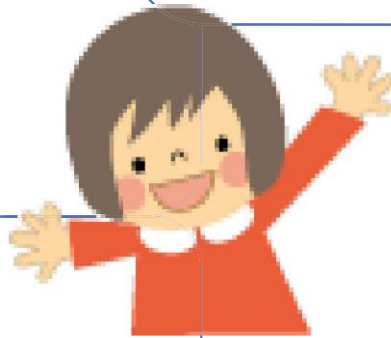
- （a）視覚、聴覚、触覚等の感覚や認知の活用
- （b）知覚から行動への認知過程の発達
- （c）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
- （d）数量、大小、色等の習得
- （e）認知の偏りへの対応
- （f）行動障害への予防及び対応

（エ）言語・コミュニケーション

- （a）言語の形成と活用
- （b）受容言語と表出言語の支援
- （c）人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- （d）指差し、身振り、サイン等の活用
- （e）読み書き能力の向上のための支援
- （f）コミュニケーション機器の活用
- （g）手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

（オ）人間関係・社会性

- （a）アタッチメント（愛着行動）の形成
- （b）模倣行動の支援
- （c）感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
- （d）一人遊びから協同遊びへの支援
- （e）自己の理解とコントロールのための支援
- （f）集団への参加への支援



児童発達支援ガイドラインに示された「本人支援」

移行支援

可能な限り、地域の保育、教育等の支援を受けられるようしていくとともに、同年代の子どもとの仲間作りを図っていくことが必要

- 障害理解と受容
- 家族・本人のエンパワメント
- 家族機能の育成・回復



子どものことで気持ちの整理ができ、落ち着いてきた家族においても、移行期の時に新たな混乱が生じていくことが少なくありません。また、両親の生活・就労状況の変化、兄弟姉妹の進学等も含め、様々な気付きや家族の結びつきを振り返っていく、大切な機会と考えましょう。

なぜ「移行支援」を重視すべきか？

- 全員が通過する課題
- テーマと目標 (学校等行き先を決めること) が明確
- 選択肢 (学校等) が絞られている～現実的な視点に立たされる
- 日程と期間が定められている
- 家族全体の現実とそれぞれの方の思いを確認できるチャンス
- 継続的に振り返りができる (結果検証)

②家族支援 親・家族を含めたトータルな支援

子どもの適切な発達環境を整えるため、親・家族支援は大きな柱
…父親のかかわり、意識、役割


そのために、発達課題や障害特性への理解を深め、具体的な
手立てと見通しを持った取り組みを通して、「障害受容」を支える

- 親が我が子の障害とその特徴を理解していくための支援
- 障害のある我が子の発達支援の意味と意義を理解し、子どもの緩やかな成長を喜びとして受け止められるようになる支援
- 親・保護者が子どもの成長の要であることを自覚し、家庭生活の中にこそ、成人期以降に生活していく力を培う機会があることを、温かく何度でも伝えていく支援
- 親・家族が抱えている生活上の問題、親自身の価値観や子どもの状態の受け止め方や理解の仕方、兄弟姉妹も含めた様々な悩み等も考慮した上で、ベストではなく、ケースに応じたよりベターな選択肢や暮らしの工夫を提案していく支援



保護者の声

よかったこと

- ◎ 会話がふえた → 色々な感情共有。
- 承認欲求が強くなった
↳ ほめられたい。 

役に立ったこと

- ◎ 友達のお母さんから「誰にも心をひらこうとしないう子の扱いが上手い」といわれた。役に立てた (ABA使)

子供の変化

表情がとっても豊かになった。かわいいと思える。

家族の変化

生まれてきてくれてありがとう
ママの子でありがとうと
いから言えた (最近)。♡

その他

其期待をかけすぎないことを
気をつけている。



今日、わたしはお皿を洗わなかった

ベッドはぐちゃぐちゃ

浸けといたおむつは
だんだんくさくなってきた

きのうこぼした食べかすが
床の上からわたしを見ている

窓ガラスはよごれすぎてアートみたい
雨が降るまでこのままだと思う

人に見られたら
なんていわれるか

ひどいねえとか、だらしがないとか
今日一日、何をしていたの?とか

わたしは、この子が眠るまで、
おっぱいをやっていた

わたしは、この子が泣きやむまで、
ずっとだっこしていた

わたしは、この子とかくれんぼした
わたしは、この子のためにおもちゃを鳴らした、それはきゅうっと鳴った

わたしは、ぶらんこをゆすり、歌をうたった
わたしは、この子に、していいことと
わるいことを、教えた

ほんとにいったい一日何をしていたのかな
たいたことはしなかったね、
たぶん、それはほんと

でもこう考えれば、いいんじゃない?

今日一日、わたしは
澄んだ目をした、
髪ふわふわな、
この子のためにすごく大切なことを
していたんだって

そしてもし、
そっちのほうがほんとなら、
わたしはちゃーんとやったわけだ

出典元「今日 Today」伊藤比呂美 訳 発行 副音感書店

③地域支援 連携（ライフステージに応じた一貫した支援）

「気になる」段階から気軽に保護者からの相談に応じたり、子どもへの療育が提供できる身近な場となる。（子どもは地域の宝）

➤診断を受けないと利用できないことを前提としない工夫

家族支援を含め個々の状況に応じた療育や発達への支援が、地域の支援システムづくりにつながることを意図して支援を提供する。

➤子どもが通過していく機能を果たすための利用前後の時期の連携

➤地域の中での役割の明確化（事業所の一方的な主張ではない）

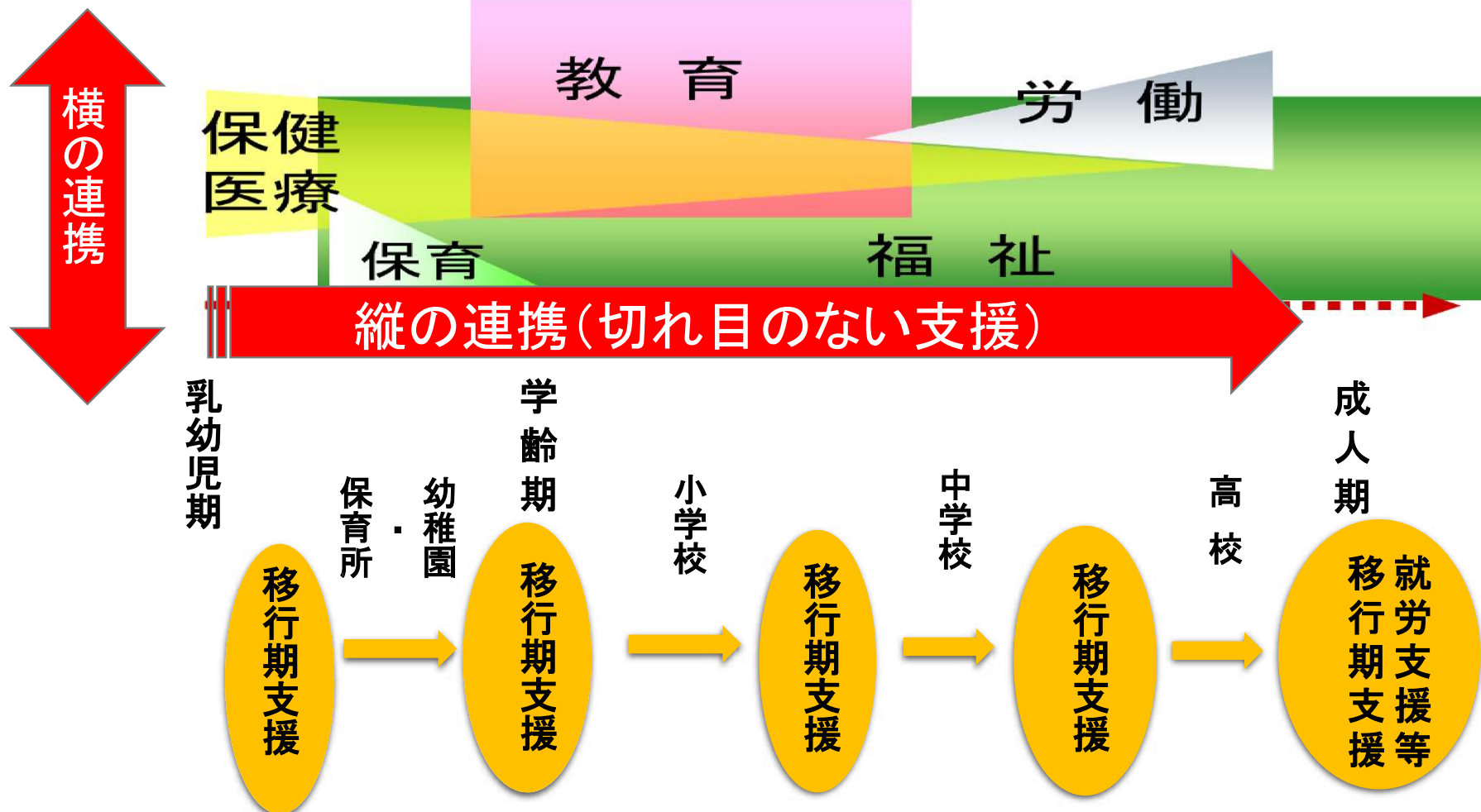
サービス担当者会議への参加等、より積極的な地域連携を心がけ、発達支援の地域拠点として機能発揮する。

➤地域と子どもとの接点を常に見つけていく

➤個別支援計画においては、集団活動での参加状況や、集団活動に参加していくための効果的なやり方を常に確認し、その可能性を探る

➤地域の中にいる子どものための人材を見つけていく

③地域支援 連携 (ライフステージに応じた一貫した支援)



連携とは支援者同士のためではなく、子どものために必要な情報を、必要なだけ共有していくことに留意！

子どもの将来の幸せを考えた個別の支援計画、サポートファイルの活用

③地域支援 連携（ライフステージに応じた一貫した支援）

障	害	児	入	所	支	援				
児童発達支援（通所支援）	放	課	後	等	デ	イ	サ	ー	ビ	ス

幼児期

「気づき」のポイント

集団活動への参加が苦手
落ち着きがない
一人遊びが多い
言葉が遅い
やりとりが一方的
急な予定変更での混乱
こだわりが強い
指示が伝わりにくい 等

親・家族、保育士

学童期
(小学校)

教科によって学習状況に遅れ
抽象的な言葉の理解が苦手
忘れ物が多い
うっかりミスが多く何回も同じことを繰り返す
うまく人間関係がとれない
感情のコントロールが難しい
相手の表情や気持ちがうまく読めない
マナーやルールに無頓着 等

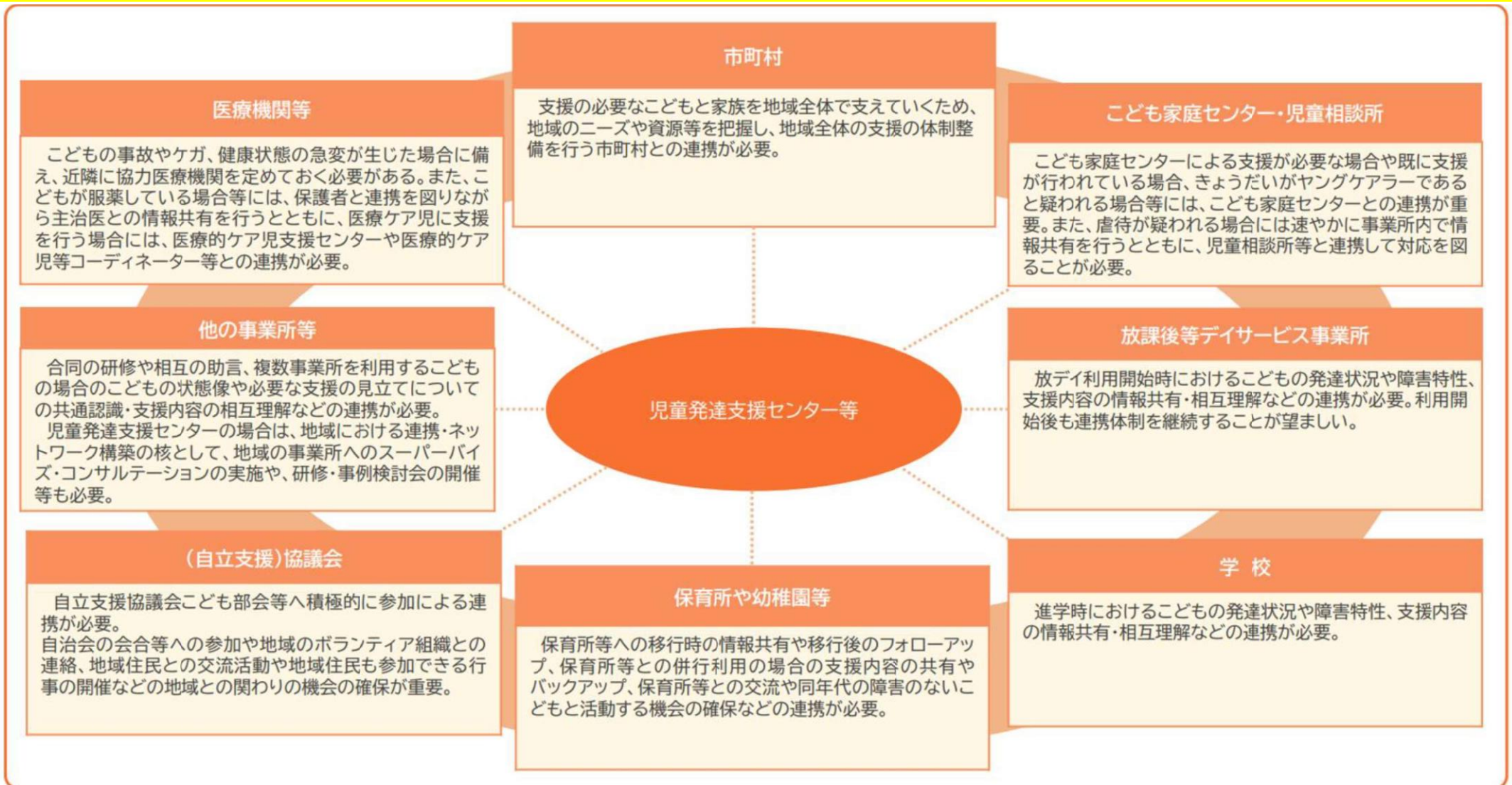
教師、親・家族

思春期
青年期
(中学校・高校)

地域における自立

自己肯定感・社会的行動の獲得

③地域支援 連携（児童発達支援センター等と地域の機関とのかかわり）



児童期の支援における課題

- 【地域の差】 支援先が少なくて困る
支援先が多くて悩む（支給決定量の妥当性）
- 【支援の質】 知識・技術 本当に必要な支援 本当に必要な量
- 【家庭背景】 生活環境 虐待 家族の心身の健康 愛着
- 【連携の実態】 事業所内は？ 多職種は？ 他事業所や関係機関は？
園や学校、地域との連携…その際のマナーは？
信頼 協働
- 【 】



私を『お母さん』と求めることがなくて、とても虚しかったことを覚えています。

発達支援の環境で、専門的な関わりを探し、学びました。

まだ言葉を発することはありませんが、周囲の言葉には耳を傾けるようになりました。

発達支援室との出会いで、一人で抱え込まずに、安心して向き合えるようになりました。

今、2・3歩前に行くと、息子が私を振り返って「ママ、手つなごう」って、手を差し出してくれます。

それがどんなに嬉しいか…

言葉では言い表せません。